

1 単元名 卒業研究

2 単元設定の理由

(1) 単元について

厚生労働省職業安定業務統計によれば、新規卒業者の中学、高校、大学の卒業3年後の離職率は、それぞれ 64.8%、39.6%、32.4%となっている。うち、1年で離職してしまう者も少なくはなく大卒者で13.4%である。

初めて勤務した会社をやめた理由（3つまでの複数回答）についてみると、「労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった」が 22.2%、「人間関係がよくなかった」が 19.6%、「仕事が自分に合わない」が 18.8%、「賃金の条件がよくなかった」が 18.0%の順となっている。これを性別にみると、男性では「労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった」が 22.7%、「賃金の条件がよくなかった」が 22.1%、「仕事が合わない」が 22.0%、女性では「人間関係がよくなかった」が 22.8%、「労働時間・休日・休暇の条件がよくなかった」が 21.8%、「仕事が自分に合わない」が 16.1%の順となっている。離職した理由のうち、休暇や賃金体系のことが最も多くなっているが、人間関係や仕事の適正に関しての理由も 38%と高い割合になっている。

以上のことから、社会に出る前から自分と向き合い、得手、不得手や自分の興味関心のあることについて考えを深める経験が必要であると考えます。

本題材の「卒業研究」は、自分で課題を設定し、情報を収集・整理・分析・活用して発表するものである。これは、「総合的な学習の時間」の目標に即した活動である。個人での活動が主となり、設定する課題が異なり指導が難しくなることも考えられるが、自分と向き合い、課題を設定して好きなことについて追及することは「生きる力」を育む絶好の機会であるにとらえ、本題材を設定した。

(2) 子どもの実態 本学級の子どもたちは明るく、学習中にも積極的な発言が多くみられる。男女の仲も良好で、休み時間は多くの子どもたちが校庭に出て、みんなでドッジボールや鬼ごっこを楽しんでいる。打瀬小は学校行事も多く、ウタスポ（運動会）や長なわ大会など、様々な集団活動の中で、子どもたちは互いにアドバイスをし合ったり、協力したりしてきている。

本単元の学習ではお互いに関心をもたせるため、少人数での話し合い活動に重点を置いて指導をする。計画段階から少人数での話し合いを取り入れ、お互いの計画が、研究課題を達成するうえでふさわしいか、もっと良い方法はないかななどをアドバイスさせる。また、進捗状況の確認や発表の準備についても同様である。

全活動を通じて、少人数の同じメンバーと継続的に活動することにより、友達のことを深く考えたり、親身になってアドバイスしたりする姿がみられるようになることを目指す。

グループを編制するうえで留意することは次のような点である。

- ・類似するテーマを設定した子どもをバラバラにすること
- ・男女のバランスを考えて編制すること これらは、様々な立場や視点からの話し合いを期待するためのものである。

3年生からの「総合的な学習の時間」を通して、研究の進め方を学習してきた。特に5年生では「福祉」の単元で少人数のグループを作り、「課題設定」→「情報収集」→「整理・分析」→「まとめ・表現」からなる研究の進め方がある程度経験している。

今回はそれらを個人で行うが、児童個々の力量の差が懸念される。子どもたちの状況を的確に把握し、必要なアドバイスができるよう計画段階でのワークシートや振り返りシートの指導を綿密に行うことでそれを解決して、意義ある学習活動にしたい。

| 班 | 研究テーマ | 班 | 研究テーマ |
|---|------------------------------|---|-------------------------|
| 1 | バスケットボールのロングシュートの成功率を上げるためには | 5 | ソフトボール投げの記録を伸ばすには |
| | フリーキックを狙ったところに蹴るには | | お手玉を作り、難しい技に挑戦する |
| | タイピングが速くなる方法 | | 栄養を考えたジュースを作る |
| | CAになるために英語力をつける | | フラダンスが上手になるには |
| 2 | 折り紙の腕を上げ、ドラゴンを作る | 6 | 50m走の記録を伸ばすには |
| | 鉄棒の持ち技を増やす | | ペットボトルロケットを遠くまで飛ばすには |
| | 二重跳び等の技を跳ぶ方法 | | 歌で気持ちを伝える |
| | アロマセラピーについて深く知る | | なすをおいしく食べるには |
| 3 | ソフトボール投げの記録を上げるには | 7 | 1000m走のタイムを縮めるには |
| | ピアノが上達するためには | | ソフトボール投げの記録を伸ばすには |
| | 木の絵が上手に描けるには | | ベイタウンの魅力が伝わるパンフレットを作る |
| | ショパンの曲を美しく弾く | | 幼稚園の先生が弾くピアノ曲が弾けるようになる |
| 4 | 掲示物を美しく作る方法 | 8 | 美しくて速いミニ四駆を作る |
| | 毛バリを上手に作るには | | 絵画の腕を上達させる |
| | 本に魅力的なポップや帯をつける | | バレーボールのサーブを狙ったところに決めるには |
| | ストーリー漫画の腕を上げる | | ひらがなを上手に書く方法 |
| | | | おいしくて栄養のあるデザートを作る |

(3) - 1 指導に当たって（キャリア教育の視点を取り入れた指導）

キャリア教育とは「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」と定義され、平成23年度の学習指導要領の改訂で、全ての教科において、これまで以上にキャリア教育の推進が求められている。本単元の学習において、キャリア教育の視点を取り入れる理由は下記の2つである。

(ア) 自分の夢や未来に向けたテーマを設定する児童が多いこと 子どもたちは、「将来の夢」、「得意なことをさらに伸ばす」、「苦手なことを克服する」、「興味・関心があることを深める」の中から、自分にふさわしい研究テーマを設定する。研究が深められれば、近い将来または遠い将来においてきっと子どもたちの役に立つはずである。

(イ) 周囲に対して関心を高め、相手のことを親身に考える姿勢を育成したいこと 子どもの実態でも述べた通り、本学級の子どもたちは自分のことはよく考えられる一方で、周りへの関心が薄く、相手のことを親身になって思う経験が少ないように感じる。本単元の学習を通して、相手と深く関わり、相手のことを親身に考えることの大切さを味わわせたい。

これらの理由は「課題対応能力」「人間関係形成能力」というキャリア教育の目指す「基礎的・汎用的能力」にあるものと深く関わっている。これらの力は児童の将来に大きく関わる「生きる力」として必要なものであると考える。

その実現のための指導の重点は下記のものである。

(ア) 個別の指導

児童が見通しをもって意欲的また、安心して研究に取り組めるようにすることで「課題対応能力」を育成する。

(イ) 中間報告会

自分の研究を振り返り、アドバイスシートを活用して課題を明確にすることで2次研究を充実させる。

(ウ) 少人数での話し合い活動 話し合い活動の機会を多く設け、充実させることで自分の研究を深めるとともにグループ内の友達の活動にも積極的に関わらせる。そのことから、相手の立場に立つことや友達の成功が自分の喜びになることを感得させる。また、合わせて外部指導者との関わりから「人間関係形成能力」を育成する。

以上のように、指導者が「キャリア教育」の視点を持ち、各時間の指導において的確な助言やアドバイスをすることで、子どもたちが変化の激しい社会の中でも様々な課題に柔軟に対応し、社会人としてたくましく自立していくことにつながるものと考えている。

(3) - 2 4つの「基礎的・汎用的能力」との関わり

A 人間関係・社会形成能力

本単元を充実させるために、他者との関わりは大切である。研究の中でお世話になるであろう専門家の方や保護者の方などとの関わり、進捗状況を伝え合う中間報告会の中で子ども同士の関わりなど、他者とどのように関わるかで、研究の深まりが大きく変わってくると思われる。子どもたちが豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていけるよう支援したい。そのためにも本単元を通して、小グループでの話し合いを大切にしたい。33人を8つのグループに分け、4～5人のメンバーで、研究の方向性や内容についてアドバイスし合うようにする。友達の研究が深まるように親身になって考え、伝え合う。そのような活動の中で、子どもたちが周りとの協力することの喜びや、相手のことを考えることの大切さについて理解できれば、きっと近い将来、または遠い将来において役に立つはずである。また、この時、話し合った内容が後に生かせるよう、ワークシートや付箋を活用して、視覚に残るように工夫したい。活動全体を通し、本学級の児童の課題である意欲的に他者と関わる姿勢が育っているよう支援したい。

B 自己管理・自己理解能力について

本単元は、特に課題設定の場面において自己理解を深めることが重要になる。自分がどんなことに興味があって、どんなこと（研究）をしたいのか、よく考えた上で研究テーマを設定しないと、60時間にも及ぶ研究活動の継続が困難になる。総合的な学習の時間の前の単元で行った「世界でたった一人の自分」の学習を生かせるような工夫も必要だと考える。

C 課題対応能力について

子どもたちは本単元の中で、非常に多くの情報を集めることになる。例えば、「美味しくて栄養のあるデザートを作るには」というテーマを設定した子どもがいた場合、どうやればパティシエになれるのか、どんなスイーツが人気なのか、材料や分量はどうか、おいしく作るコツは何なのかなど、調べ学習や体験学習の中で様々な情報を集める。それらを伝えたい相手（本単元では5・6年生の子どもとその保護者の方が対象）に向けて、どのような順序で、どう伝えればわかりやすく伝わるのか、集めた情報の生かし方が重要になる。

それらの課題を乗り越えていく上で、心配なのは個人差の問題である。本学級には、力量があり、課題設定から、その追究までを難なく進められそうな子どももいる一方で、それらの活動を苦手とし、なかなか自分でやるべきことを理解できない子どももいる。そこで、一人一人を順番に呼んで面談をする機会を作ったり、活動中に悩んだり、迷ったりしている子どもに対しては積極的に声をかけたりするなどして、個別の支援を充実させたい。本単元の学習を通して、この「課題対応能力」を育てることができれば、子どもたちがこれから先に直面するであろう様々な課題に柔軟に対応し、自分の役割を果たしていけるのではないかと期待する。

D キャリアプランニング能力について

自分の夢の実現に向けた研究テーマを選ぶ子、得意なことを伸長する研究課題を設定する子、逆に苦手なことを研究課題に設定する子など、子どもたちからは様々なテーマが出されることと思う。得意なことがさらに深まることで自分の夢への道が描けたり、苦手なことを克服することで将来の自分に自信が持てたりするということからもキャリアプランニングの視点をこちらが常に持って指導することは大切である。

3 単元の目標

| 総合的な学習の時間での目標 | キャリア教育の視点からの目標 |
|--|---|
| <p><課題設定において></p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究の学習について理解し、適切なテーマを設定する。 <p><情報収集において></p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を追究するための手段を考え、いろいろな方法で取り組む。 <p><整理・分析において></p> <ul style="list-style-type: none"> 集めた情報を取捨選択し、必要な情報を整理する。 <p><まとめ・表現において></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の研究の取り組みの過程について、わかりやすく伝える。 <p>※本単元における総合的な学習の時間とキャリア教育の目標の関連については下の「5 指導計画」に記載する。</p> | <p><人間関係・社会形成能力></p> <ul style="list-style-type: none"> グループの友達の研究について親身になって考える。 グループの友達の研究について適切なアドバイスをする。 お世話になる専門家の方や、家族に適切な態度で接する。 <p><自己管理・自己理解能力></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の興味、関心などの中から、研究したい内容を考えて決定する。 <p><課題対応能力></p> <ul style="list-style-type: none"> 課題を追究するための手段を考え、いろいろな方法で取り組む。 集めた情報から必要な情報を抜き出す。 伝える方法を考え、わかりやすく伝える。 <p><キャリアプランニング能力></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の夢や目標の実現に向けての取り組みの大切さを理解する。 |

4 評価規準

| 観 点 | 内 容 (と 場 面) |
|----------|---|
| 関心・意欲・態度 | <ul style="list-style-type: none"> 意欲的に楽しく追究活動に取り組むことができる (情報収集) |
| 思考・判断 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の興味・関心・課題などの中から、自分の研究したいことを考えてテーマを設定することができる。(課題設定) 研究内容を創意工夫することができる。(情報収集)(整理・分析) 友達の発表の良いところに気付きながら、しっかりと聞くことができる。(まとめ・表現) |
| 技能・表現 | <ul style="list-style-type: none"> 課題を追究するための手段を自分で考え、いろいろな方法で取り組むことができる。(情報収集) 研究の取り組みの過程について、わかりやすくまとめることができる。(整理・分析) 研究の取り組みの過程について、わかりやすく発表することができる。(まとめ・表現) |
| 知識・理解 | <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究の学習について理解し、適切なテーマが設定できる。(課題設定) 設定したテーマについて知識を深めたり、技能を伸ばしたりすることができる。(まとめ・表現) |

5 指導計画（全61時間 本時32／61）

※キャリア教育で育む力

A 人間関係・社会形成能力 B 自己管理・自己理解能力 C 課題対応能力 D キャリアプランニング能力

| 小単元名 【場面】 | 時 | 学習内容 | 指導上の留意点 | キャリア教育で育む力 |
|----------------------------|----------|--|--|--------------------------|
| 学習への意欲を持つ | 1 | ・ガイダンスの中で、卒業研究の意義と流れについて知る。 | ・卒業研究の目的や見通しについてよく理解させ、意欲を高めるようにする。 | |
| 自分を見つめ、テーマを決定しよう 【課題設定】 | 3 | ・夢や得意・不得意なこと、興味のあることなどの中から、研究テーマを決定する。 ・テーマについて担任と面談を行う。 | ・子どもたち一人一人と面談をする。その際、子どもの実態を考慮しながら、適切なテーマを設定できているか判断し、アドバイスをする。 | B 自己 D キャリア |
| 計画を立てて課題を追究しよう 【情報収集】 | 20 | ○1次研究 ・1年間の研究計画を立てる。 ・夏休みの研究計画を立てる。 ・課題に沿って調べ学習や取材、体験活動などを行う。 | ・子どもが立てた計画が長期の研究に耐えられるものかどうか判断し、アドバイスをする。 ・お世話になる方への礼儀やあいさつについて指導する。 | A 人間 社会 C 課題 対応 |
| | 6 | ○中間報告会 ・報告会に向け、これまでの活動をまとめる。 ・報告会に向けて、発表の練習をする。 ・報告会で挙げた課題や今後の方向性を整理する。 | ・これまでの研究の足跡が伝わるような発表ができるよう声をかける。 ・発表内容にたいするフィードバックをし、今後の研究に意欲をもたせるようにする。 ・研究内容だけでなく、発表態度についてもアドバイスをする。 | |
| | 18 本時 | ○2次研究 ・今後の研究計画を立てる。 ・計画を基に2次研究を行う。 | ・1次研究を補える内容か、ゴールを想定できているか判断し、アドバイスをする。 | |
| 研究をまとめて、発表準備をしよう 【整理分析】 | 4 | ・集めた情報や体験した内容を整理する。 ・研究発表会に向けて準備をする。 | ・集めた情報全てをそのまま活用するのではなく、必要な情報を抜き出したり、自分の言葉に置き換えたりするよう声をかける。 | A 人間 社会 C 課題 対応 |
| 研究発表会をしよう 【まとめ・表現】 | 8 | ・研究の取り組みの過程やわかったことについて発表する。 ・友達の発表を聞き、感想を伝える。 | ・取り組みや発表内容の良かったところを褒め、子どもの今後の自信につながるようにする。 | A 人間 社会 C 課題 対応 |
| 生活に生かそう 【まとめ】 | 1 | ・これまでの研究を振り返り、今後の生活や学習に生かす。 | ・子どもの成長を認め、今後の生活や学習に生かせるように声をかける。 | B 自己 D キャリア |

6 本時の学習

(1) 本時の目標 (◇は総合的な学習の時間・☆はキャリア教育)

◇2次研究の進め方について、友達と積極的に話し合うことができる。(関心・意欲・態度)

☆相手の立場になって話を聞き、友達の2次研究の進め方について必要なアドバイスをすることができる(人間関係形成能力)

(2) 本時の展開 (32/61)

| 時 | 学習活動 | ○指導や支援の手立て 評価 (◇総合 ☆キャリア教育の視点) |
|---|---|--|
| 1 | <p>前時の学習を想起し、本時の課題を確かめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 2次研究を充実させるために、今後の計画についてグループの友達とアドバイスし合おう。 </div> | <p>○本時の活動の内容と目標を伝える。</p> |
| 2 | <p>計画書をもとに、グループのメンバーそれぞれの2次研究について話し合う。</p> <p>【話し合いの流れ：1人8分】</p> <p>①発表者は計画書をもとに、2次研究の進め方について説明する。</p> <p>※この時、1次研究でやった具体物などがあれば示しながら行うようにする。</p> <p>②聞く人は、気が付いたことを付箋にメモをしながら聞く。</p> <p>③発表後、聞いていた人は1人ずつ発表者に対して付箋をもとに質問やアドバイスを行う。</p> <p>【チェック項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマから内容がそれていないか ・立てた計画で、研究テーマが深まるか ・本当に実現可能な計画になっているか ・日程・準備物は大丈夫か など | <p>○小グループ活動全体の流れや、発表の仕方や、聞くときの注意点等について説明する。</p> <p>○発表者は、中間報告会の時と同様に、今後の道すじを具体的に話すように声をかける。</p> <p>○聞く人は「チェック項目」を参考にして良い点や改善点(アドバイス)についてできるだけくわしく伝えるように声をかける。</p> <p>○付箋を活用し、アドバイスの内容が後から思い出することができるようにする。</p> <p>○グループメンバー全員が今回の研究を通して成長できるよう、見通しをもって具体的に考えるように声をかける。</p> <p>○時間のめやすを伝え、アドバイスがもらえない子どもがいないように配慮する。</p> <p>◇意欲的に話を聞き、必要なアドバイスをすることができる(関心・意欲・態度)</p> <p>☆相手の立場になり、立てた計画が正しいかを判断し、必要なアドバイスをすることができる。 (人間関係形成能力)</p> |
| 3 | <p>友達からもらった付箋を整理し、次時に行う計画の修正に生かせるようにする。</p> <p>・「よかったところ」「アドバイス」のように、友達からもらった付箋をグループ分けする。</p> | <p>○机間指導を行い、困っている子どもがいたら個別のアドバイスをする。</p> |
| 4 | <p>学習の振り返りを行う。</p> <p>・振り返りカードに本時の活動の振り返りを記入し、発表し合う。</p> | <p>○本時の学習を振り返り、自己評価したり、お互いの頑張りを認め合ったりする。</p> <p>○次回からの活動について予告をする。</p> |

卒業研究2次研究計画書

6年 組 ()

中間報告会が終わり、いよいよ2次研究へ取り組むことになりました。1次研究で追いきれなかったこと、中間報告会で明らかになった問題点などを整理し、2次研究計画を立てましょう。年が明けると最後の「卒研発表会」のための準備などで忙しくなり、研究する時間がほとんどもてません。専門家に会って見識を深めたり、助言をあおいだり、自分で実際に体験したり製作したりする期間はこの時期です。時間を有効に使うためにも、計画をしっかり立て、2次研究に臨みましょう。

○自分の研究テーマ&目指す姿をもう一度確認してみよう！

| |
|--|
| <p>研究テーマ</p> <p>2月にどのような姿を目指すのか（どんな自分になっていきたいか）</p> <hr/> <hr/> |
|--|

○中間報告会の振り返りから・・・

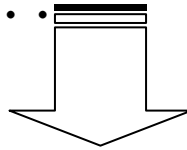
1次研究で追いきれなかったこと（内容面で）

2次研究の追究課題 ⇒ その方法

○11月～1月の計画

| 研究時期 | 研究・活動内容など | 修正・付け足しなど |
|---------|-----------|-----------|
| 11月中旬 | | |
| 11月下旬 | | |
| 12月上旬 | | |
| 12月中旬 | | |
| (年末・年始) | | |

1月からは・・・



卒業研究発表会に向けての資料作り・発表練習

☆グループの友達からもらった付箋を、工夫してまとめておこう。

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

11月例会

総合的な学習の時間（キャリア教育）学習指導案

1 展開日時 平成27年11月17日（火）

(1) 研究授業 14:00～14:45（6年3組教室）

(2) 協議会 15:00～16:20（視聴覚室）

2 展開学級

3 授業者



千葉市立打瀬小学校